

25年センター試験実施速報(平均点等「中間発表」)

25年センター試験“基幹3教科”平均点合計(中間集計/600点満点)

**「国語+数学(I・A+II・B)+英語」は、
27.5点ダウンの332.3点(得点率55.4%)!**

数学I・A-17.8点、国語-16.1点の大幅ダウン。

数学II・B+5.6点、英語+0.8点のアップ。

日本史B、物理Iもダウン/文・理系とも“弱気・慎重”出願か!?

旺文社 教育情報センター 25年1月24日

25年センター試験(本試)が1月19日(土)・20日(日)の両日、全国707試験場で実施された。

24年は、地理歴史(以下、地歴)と公民の問題冊子の配付ミスや、受験者への説明・指示に手間取ったことで試験開始時刻の遅れが多発するなど、多大な混乱を招いた。25年は地歴と公民の問題冊子をパッケージ(ラップ)化し、説明・指示時間を事前に延長するなどの改善を図ったため、前年のような大きな混乱はなかった。

大学入試センターは1月23日、各科目の平均点等の中間集計を発表。旺文社では当データを基に、基幹3教科である国語、数学(I・A+II・B)、英語の平均点合計(600点満点)を算出した。

数学II・Bはアップ、英語は前年並みであったが、数学I・Aと国語の大幅ダウンで、24年より27.5点ダウンの332.3点(得点率55.4%)である。日本史Bや物理Iもダウン。基幹科目や文・理系それぞれの必須科目の難化で、文系・理系の志望者とも“弱気・慎重”出願になりそうだ。

■センター試験の志願状況

<志願者数57万3,344人で、2年ぶりの増加>

- ① 志願者数、前年より1万7,807人増：25年センター試験(以下、セ試)の志願者数は、前年比3.2%増の57万3,344人で、2年ぶりの増加。
- ② “現役生”は2年ぶりの増加、“既卒者”は2年連続の減少：25年は高卒者数の大幅な増加に加え、大学志願率の再上昇などが見込まれ、現役生は2年ぶりに前年より2万153人(4.6%)増の45万9,866人だった。
一方、既卒者は、前年より2,039人(1.9%)減の10万7,709人で、2年連続の減少。
なお、高等学校卒業程度認定試験の合格者等の志願者は、前年より307人(5.1%)減の5,769人だった。
- ③ 志願者増の主な背景：
 - 25年の18歳人口・高卒者(25年3月卒業見込者)数はともに3年ぶりに3%以上の大幅な増加が見込まれ、高卒者数は24年より約3万4,000人増の約109万人が予測される(旺文社推定、通信制課程含まず)。

- 大学への現役志願率は、19年 51.8% → 20年 53.5% → 21年 54.9% → 22年 55.7% → 23年 55.4% → 24年 55.0%と、最近は2年連続でやや低下したが、25年は女子の大学進学志望の一層の高まりなどから、再び上昇に転じることも予測される。
- セ試受験を必須とする国公立大志向の一層の高まりに加え、私立大セ試利用入試志願者の拡大、高校でのセ試受験による進学指導の拡大などが想定されるほか、高校理数科・総合学科など志願者層の拡大がみられる。

なお、25年のセ試利用大学・短大は、前年より公立2大学・私立7大学増の国公立683大学(国立82大学、公立81大学、私立520大学)／公立1短大減・私立3短大減の157公私立短大(公立15短大、私立142短大)である。

■「追試験」の受験許可状況、「再試験」の対象者数等

- 「追試験」は、病気や負傷、試験場に向かう途中の事故、その他やむを得ない事由により「本試験」を受験できなかった者を対象者として、25年は東京海洋大と京都教育大で1月26日(土)・27日(日)に実施される予定である。

「追試験」の受験許可者数は、東京海洋大247人(疾病・負傷241人、事故等6人)、京都教育大124人(疾病・負傷)の合計371人である。

- 「再試験」は、雪・地震等による災害、試験実施上の事故、その他の事情により、「本試験」が所定どおり実施できなかった場合に実施される。実施日は、「追試験」と同じ。「再試験」対象者は37人で、受験希望者は9人。

■科目別平均点等(中間集計：大学入試センター発表、1月23日)

大学入試センターが発表した25年セ試の平均点等の“中間集計”から、主なセ試科目の前年との平均点差等を見てみよう。

- 平均点がダウンした主な科目は、数学Ⅰ・A(前年の「中間集計」値との差。以下、同。-17.8点)、国語(-16.1点)、倫理(-10.1点)、日本史B(-5.9点)、物理Ⅰ(-5.5点)、政治・経済(-2.4点)、生物Ⅰ(-2.3点)、化学Ⅰ(-1.4点)など。
- 一方、平均点アップの主な科目は、現代社会(+8.3点)、数学Ⅱ・B(+5.6点)、世界史B(+1.2点)、英語(+0.8点。「筆記」-5.7点／「リスニング」+6.8点)など。
- 24年セ試から地歴、公民、理科における各科目の得点には、「第1解答」と「第2解答」の得点が混在するため、各科目の平均点の実態が把握しにくい。

そのため、平均点の動向をみる一つの視点として、文系・理系に共通の“基幹3教科”である国語、数学、英語の平均点合計を算出した。

大学入試センターから発表された科目別平均点等の「中間集計」を基に算出した“基幹3教科”平均点合計(600点満点)は、次のとおりである。

- **【国語 + 数学(数学Ⅰ・A + 数学Ⅱ・B) + 英語】：332.3点(600点満点)**
(前年「中間集計」値との差：-27.5点。得点率55.4%)

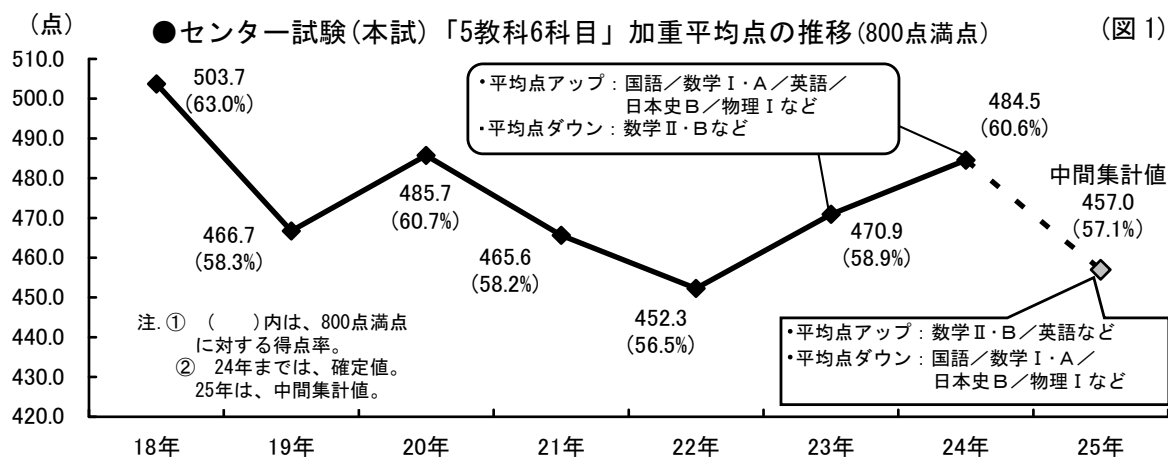
なお、国公立大受験の動向をみるための参考に、文・理系型受験に共通の“5教科6科目”（国語、地歴・公民＜合せて1科目＞、数学＜①と②の2科目＞、理科＜合せて1科目＞、外国語＜合せて1科目＞の各加重平均の合計。800点満点）の平均点も算出した。結果は457.0点（得点率57.1%）で、前年の「中間集計」値より31.9点ダウンしている。

- 得点調整の対象科目間の平均点較差をみると、**地歴：世界史B－地理B＝1.1点／公民：現代社会－政治・経済＝4.4点／理科：地学I－物理I＝6.8点。**

得点調整は、対象科目間の平均点較差が20点以上で、それが問題の難易差に基づくものと認められる場合に実施される。現時点では、いずれも20点以内に収まり、得点調整は実施されない模様。実施の有無は1月25日（金）、大学入試センターから発表される予定。

■基幹3教科の平均点合計大幅ダウン！

- 上述したセ試“5教科6科目”の最近の平均点（800点満点。24年までの確定値）は、22年の452.3点（得点率56.5%）を底として、23年470.9点（同58.9%）→24年484.5点（同60.6%）と、2年連続上昇し、得点率6割台までのV字回復を果たしている。（図1参照）



注. 大学入試センター発表の各科目別平均点と受験者数から算出。国語（200点満点）の平均点、及び地歴と公民を合せて1教科・1科目とした加重平均点（100点満点）、数学①の加重平均点（100点満点）、数学②の加重平均点（100点満点）、理科の加重平均点（100点満点）、外国語の加重平均点（200点満点）を合計（800点満点）。

ところで、図1のようなセ試“5教科6科目”平均点の推移の中で、基幹科目の平均点が23年、24年の2年間にどう変わったのかをみてみる。

各基幹科目の平均点のアップ・ダウンの状況は、次のとおりである。

- 国語（23年→24年の順で確定値。以下、同）：+3.7点→+6.7点／数学I・A：+17.0点→+4.0点／数学II・B：-4.7点→-1.3点／英語（筆記＋リスニング）：+0.4点→+0.6点。

また、文系型と理系型のそれぞれ代表的な科目である日本史Bは+2.6点→+3.8点、物理Iは+10.1点→+4.0点である。

これらの科目の25年の平均点（中間集計）をみると、2年連続アップした国語、数学I・A、及び日本史B、物理Iがそれぞれ平均点ダウンした一方で、2年連続ダウンした数学

Ⅱ・B がアップしている。(図 1 参照)

つまり、基幹科目をはじめとする 2 年連続の平均点アップとダウンのそれぞれ“反動”が、それぞれの当該科目に“難化”(平均点ダウン)と“易化”(平均点アップ)をもたらし、結果として、基幹 3 教科の平均点合計の大幅ダウンに結び付いたとみる。

特に、数学Ⅰ・Aと日本史Bなどの難化は文系志望者に、国語と物理Ⅰなどの難化は理系志望者にとって、それぞれ厳しい結果になったとみられる。

- 英語(筆記+リスニング)は、その得点率(確定値)の最近の推移をみると、21年の56.1%を底に、22年59.0% → 23年59.2% → 24年59.5%と、ここ数年6割近くをキープ。

「筆記」の得点率も21年57.5% → 22年59.1% → 23年61.4% → 24年62.1%と、3年連続のアップ。ただ、「リスニング」の得点率は、21年48.1% → 22年58.8% → 23年50.3% → 24年49.1%と、2年連続ダウン。

25年の平均点(中間集計)は、「筆記」の-5.7点に対し、「リスニング」が+6.8点と上昇に転じたことで、英語(筆記+リスニング)はほぼ前年並みの+0.8点となり、かろうじて平均点ダウンにならなかった。

■ 「出願動向」予測：文・理系とも“弱気・慎重”出願か!?

- 25年入試は、根強い国公立大志向と資格志向、「文低理高」傾向の下、国公立大個別試験の出願(1月28日～2月6日)に際し、文系・理系志望者ともに、セ試平均点ダウンに伴う自信喪失で“弱気・慎重出願”が見込まれる。

国公立大は「難関校 → 準難関校 → 地方中堅校」への“ランクダウン”と、前年の極端な“反動”(前年低倍率または倍率ダウンの大学・学部への集中、高倍率または倍率アップの大学・学部の敬遠)が予想される。

この傾向は、特に文系学部、教員養成系や後期日程で顕著になりそうだ。

- セ試平均点ダウンの影響は、私立大への若干の併願増(特に中堅校の、本試験日後に出願を締め切るセ試利用入試)も予想される。

ただし、私立大のセ試利用入試の場合、いまや事前出願(セ試の本試験日<1月19日>前に出願締め切り)が多数派であるため、影響は限定的になりそうだ。

一方、私立大の独自入試についても、セ試の難化による自信喪失の影響で、「中堅校志向」が強まり、セ試の実施前に志願者増が予想されていた「難関～準難関校」についても、やや鈍化が見込まれる。

☆ ☆ ☆

次ページに、「25年センター試験平均点等一覧」(中間集計)を掲載。

平成25年度 大学入試センター試験 平均点等一覧(中間集計)

<平成25年1月23日 大学入試センター発表>

教科	科目	平成25年(中間)		平成24年(中間)		平均点 対前年差	
		受験者数	平均点	受験者数	平均点		
基幹3教科 平均点合計(600点満点) 【国語+数学Ⅰ・A+数学Ⅱ・B+英語(200点換算)】		- (得点率)	332.3 55.4%	- (得点率)	359.8 60.0%	▲ 27.5	
国語(200点)		212,385	98.8	199,608	115.0	▲ 16.1	
地理 歴史・ 公民	地理歴史(100点)	世界史A	695	46.9	679	45.3	1.5
		世界史B	39,924	64.1	37,116	62.9	1.2
		日本史A	1,135	41.5	1,303	49.1	▲ 7.6
		日本史B	66,535	63.3	59,014	69.2	▲ 5.9
		地理A	889	51.1	1,023	49.0	2.1
		地理B	46,103	63.0	36,809	63.9	▲ 0.9
	公民(100点)	現代社会	26,426	61.7	30,403	53.5	8.3
		倫理	13,082	58.7	11,471	68.8	▲ 10.1
		政治・経済	20,291	57.3	20,128	59.8	▲ 2.4
		倫理、政治・経済	19,960	61.9	16,868	68.3	▲ 6.4
数学	数学①(100点)	数学Ⅰ	3,228	43.6	2,859	42.2	1.5
		数学Ⅰ・数学A	140,998	53.1	140,305	70.8	▲ 17.8
	数学②(100点)	数学Ⅱ	2,577	29.1	2,694	27.4	1.7
		数学Ⅱ・数学B	123,735	58.5	124,496	52.9	5.6
		工業数理基礎	7	25.6	10	28.0	▲ 2.4
		簿記・会計	259	36.2	311	41.1	▲ 4.8
	情報関係基礎	128	59.2	145	57.8	1.4	
理科(100点)	理科総合A	3,412	49.3	3,908	71.2	▲ 21.9	
	理科総合B	4,004	57.8	4,376	61.7	▲ 3.9	
	物理Ⅰ	60,896	62.7	57,080	68.2	▲ 5.5	
	化学Ⅰ	84,060	64.4	79,637	65.8	▲ 1.4	
	生物Ⅰ	62,686	63.0	59,239	65.3	▲ 2.3	
	地学Ⅰ	6,591	69.5	6,422	70.7	▲ 1.2	
外国語(200点)	英語	筆記(200点)	219,056	120.8	207,256	126.5	▲ 5.7
		リスニング(50点)	215,032	31.6	198,357	24.9	6.8
		筆+リ(200点換算)	-	121.9	-	121.1	0.8
		ドイツ語	74	146.9	77	152.4	▲ 5.6
		フランス語	113	152.0	87	122.9	29.1
		中国語	246	163.3	223	154.5	8.8
		韓国語	110	141.6	89	148.2	▲ 6.5

<注>

- ① 英語の平均点(200点)は、「筆記」(200点)＋「リスニング」(50点)の250点満点を200点に圧縮換算。
- ② 大学入試センター発表の科目別平均点は小数第2位の表示だが、旺文社では小数第1位で表示。
- ③ 表中の「平均点对前年差」は、四捨五入の関係で「25年-24年」と一致しない場合もある。
▲印はダウンを示す。
- ④ 地歴(各B科目間)、公民(「倫理、政治・経済」除く、各科目間)、理科(各Ⅰ科目間)における得点調整は、「地学Ⅰ」-「物理Ⅰ」の6.8点が最大で、実施されない模様。

旺文社 教育情報センター(平成25年1月23日)

